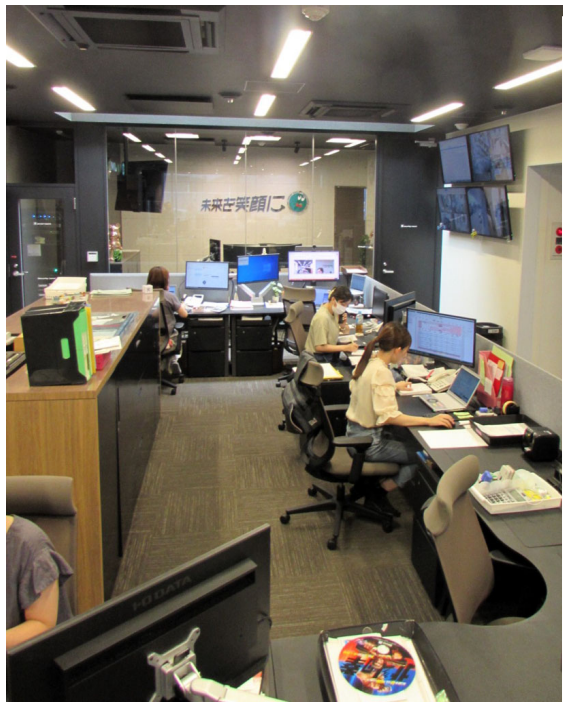
中小の事務作業自動化支援

四日市事務機センター

来春めどに事業開始

事務機器の販売や保守管理を手掛ける四日市事務機センター（本社四日市市日永西2の18の7、佐野智成社長、電話059・346・5411）は来年春をめどに、定型的な事務作業を自動化する「RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）」の導入支援サービスを開始する。中小の顧客企業を対象に、デジタルトランスフォーメーション（DX）化を進める業務を同社が請け負う。今月、プログラミング作業などを担う専門部署を設置した。まずは社内でRPAの運用を始める。

（四日市・桝田宏行）



定型業務の自動化に乗り出す四日市事務機センターの本社オフィス

専門部署の名称は「DXアシストグループ」。社内で9月からRPAを試験運用し、10月から本格的な運用を予定する。四日市事務機センターを含むグループ全体でRPAを活用する計画。

RPAの対象となる業務は現在十数種類を想定する。注文書作成や棚卸し業務、サーバーなどにあるファイルの管理、従業員に対して未提出の申請書類の提出を促すメール配信など、さまざまな分野で活用を見込む。グループ全体で約60人分の日々の間接部門における定型業務をRPAに置き換えることで、事務作業の大幅削減を目指す。

来年春をめどに始める予定のRPAの導入支援事業では、社内での運用事例やRPA活用のノウハウを生かす。具体的な内容や料金は今後詰めるが、中小企業でも導入しやすい安価な価格帯に設定する。人手不足などに伴い中小企業で高まる生産性向上の需要を取り込む。

佐野社長は「RPAは大手を中心に普及が進む一方、中小では導入事例が少ない。三重県の中小企業にRPAを普及させていきたい」と意欲を示している。